

(3) 鹿角市・平元地区

① 取組内容と実施スケジュール

モデル自治体・地区では人口分析・推計に加えて現地調査・ヒアリング、2回のワークショップ、市町報告会を実施した。以下が実施概要である。

■現地調査・ヒアリング

・市役所担当者へのヒアリング

日時 2020年7月28日(火) 10:00-12:00

場所 鹿角市交流センター

対象 市民共働課4名、政策企画課2名

・対象地区住民代表へのヒアリングおよび現地調査

日時 2020年7月28日(火) 13:00-17:00

場所 鹿角市柴平地域活動センターおよび平元地区各所

対象 各自治会長・副会長5名、平元地区コミュニティ推進委員会副委員長ら4名

■ワークショップ(1回目)

日時 2020年10月9日(金) 18:00-20:00

場所 鹿角市柴平地域活動センター

参加 24名

■ワークショップ(2回目)

日時 2020年11月27日(金) 18:00-20:00

場所 鹿角市柴平地域活動センター

参加 19名

■鹿角市報告会

日時 2020年12月20日(日) 13:30-15:30

場所 鹿角市交流センター

参加 35名

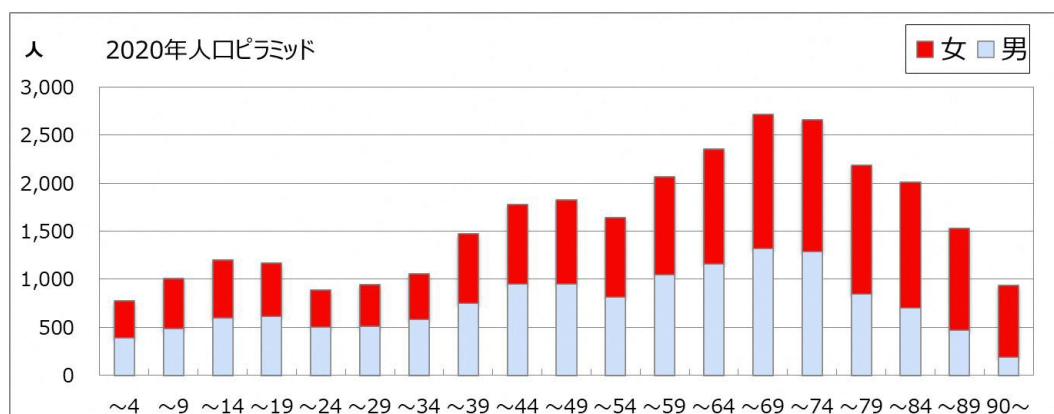
② 人口分析・推計（鹿角市全体）

委託機関が構築した人口推計シミュレーションプログラムを用いて鹿角市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションを行った。

1）現状分析（2015～2020 年）

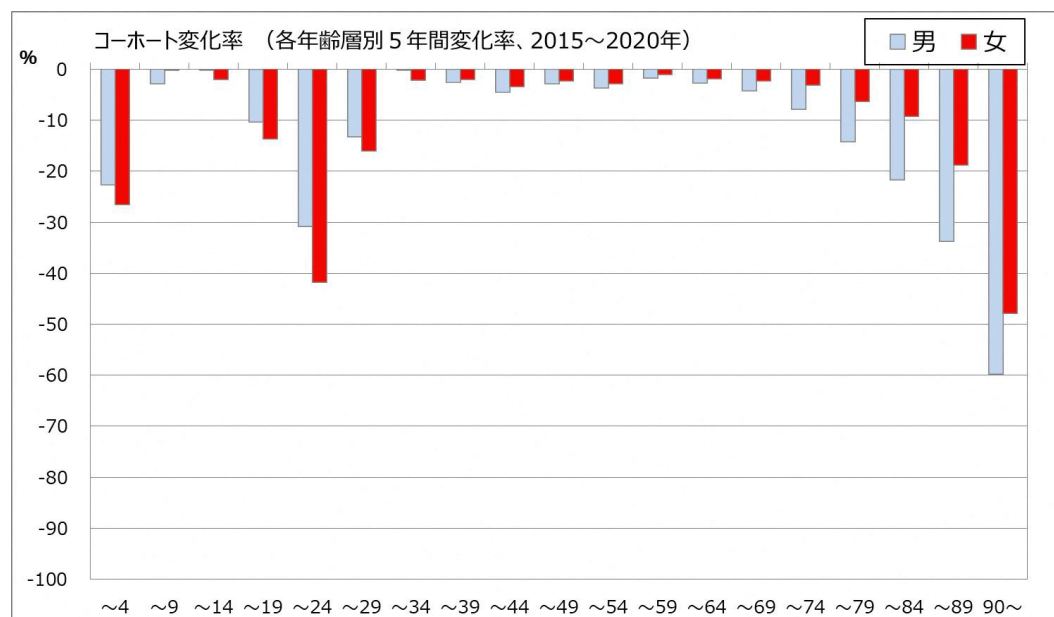
鹿角市全体の人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



60代後半が最多の2,709人、次いで70代前半が2,656人となっている。最も少ないのは0～4歳の770人、その次が20代前半の887人となっており最も多い年代と比較して3割程度となっている。

ii. 年代別コーホート変化率



これは 2015 年から 2020 年の 5 年間の各年代における人口増減を変化率で示したもので

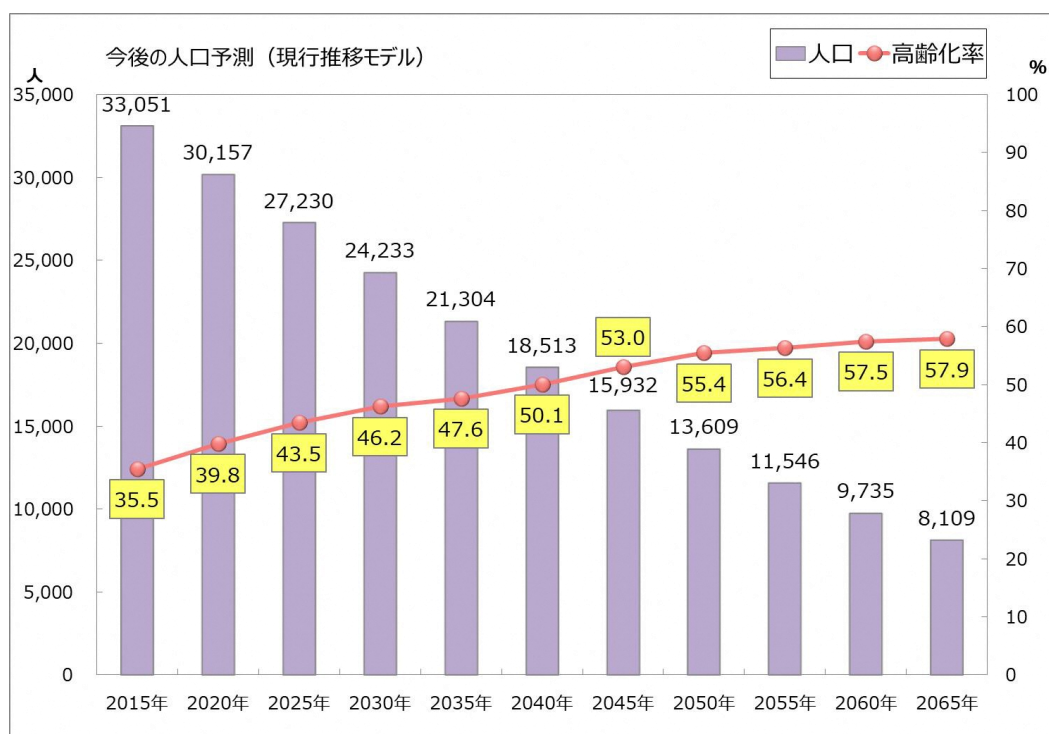
ある。例えばこの図で示される「～19」は「15～19 歳」の 10 代後半のことで、数値はこの年代の 2015 年時点の「10～14 歳」の人口と比較してどの程度の増減（主に社会増減）をしているかを表している（0～4 歳のみ 5 年前の比較が出来ないので各時点での人数を比較）。また、高齢年代の減少の多くは自然減である。

鹿角市では全ての年代で減少している。10 代後半～20 代後半に大幅に減少した人口をその後の年代でも全く取り戻すことが出来ていないということが分かる。

2) 現状推移シナリオ

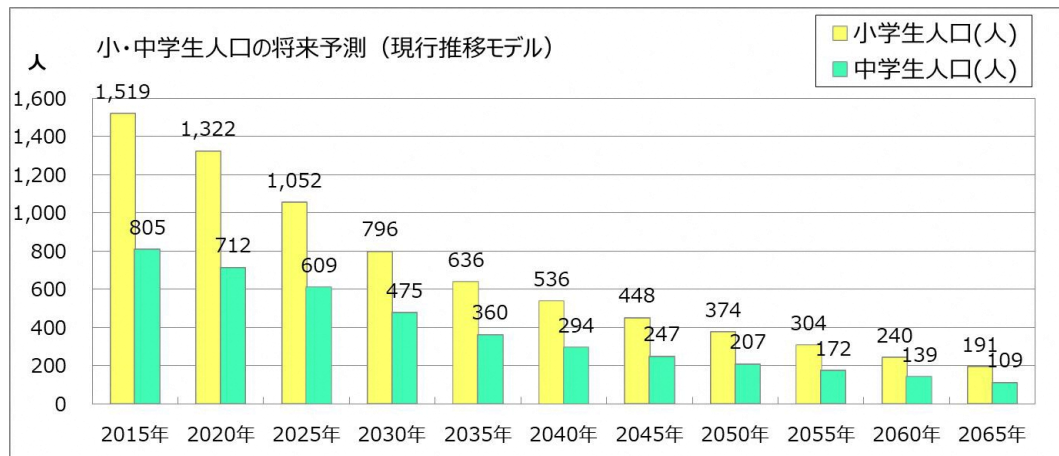
過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討する。

i. 人口と高齢化率予測



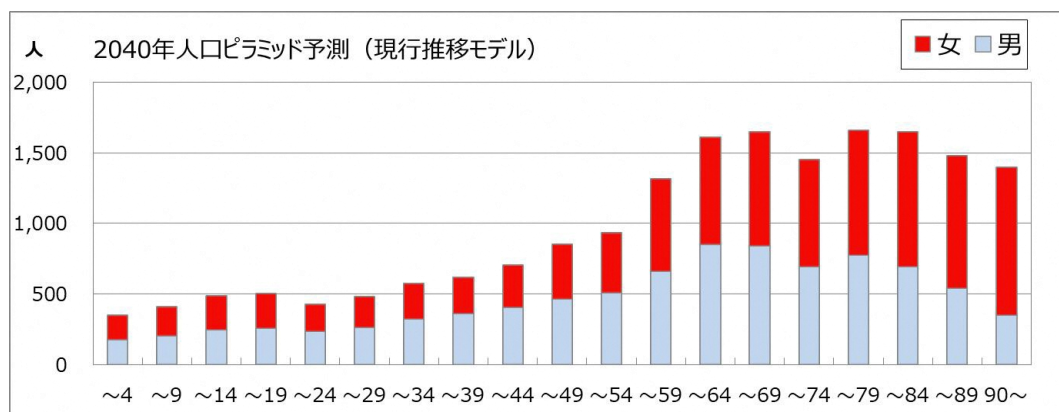
若年層を中心とした流出と高齢者割合の高まりから、高齢化率は 2065 年までに 20% 弱の上昇が予測される。人口総数は減少の一途で、2020 年比で 2040 年には 61.4%、さらに 2065 年には 26.9% まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



過去5年間の出生数や社会増減を基に予測する限り、小・中学生数も著しい減少となる。2020年比で2040年には40.8%、2065年には14.7%となり、人口総数以上の減少率と推計されている。

iii. 2040年（20年後）の年代別人口構成



最も多い年代は60代後半、70代後半、80代前半の1,700人前後と予測される。2020年の最も多い年代が60代後半の2,709人であったことを踏まえれば、ピークの年代層がより高齢年代に移動しつつ、20年前のピークの年代（60代後半）と比較して約1,000人減少しているということになる。さらにそれより若い年代では一層、減少幅が大きく30代未満の各年代では、そのほとんどが500人以下になると推計されている。

3) 人口安定化シナリオ

人口安定化シナリオは合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせて検討する。人口の安定化には出生率と10代後半の流出率を改善させ、過去の若年層の人口流出を補うように、20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代のバランスのとれた定住を増加させることが望ましいと思われる。

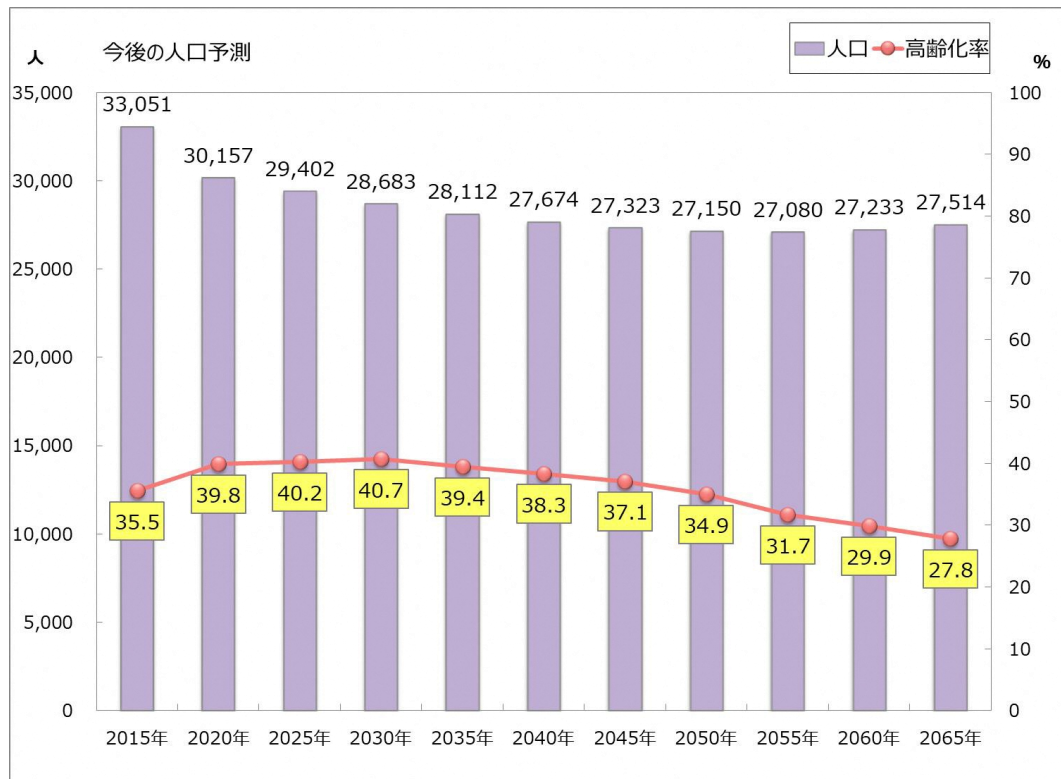
今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された鹿角市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各49.4組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年	
年次	出生率		現状	設定値	
2020～2025年	1.54				各世代（世帯） 49.4
2025～2030年	1.63	男性	31	15	合計世帯数（世帯） 148.2
2030～2035年	1.73	女性	42	21	合計人数（人） 345.8
2035～2040年	1.83				2020年人口比（％） 1.15
2040～2045年	1.94				
2045年以降	2.07				

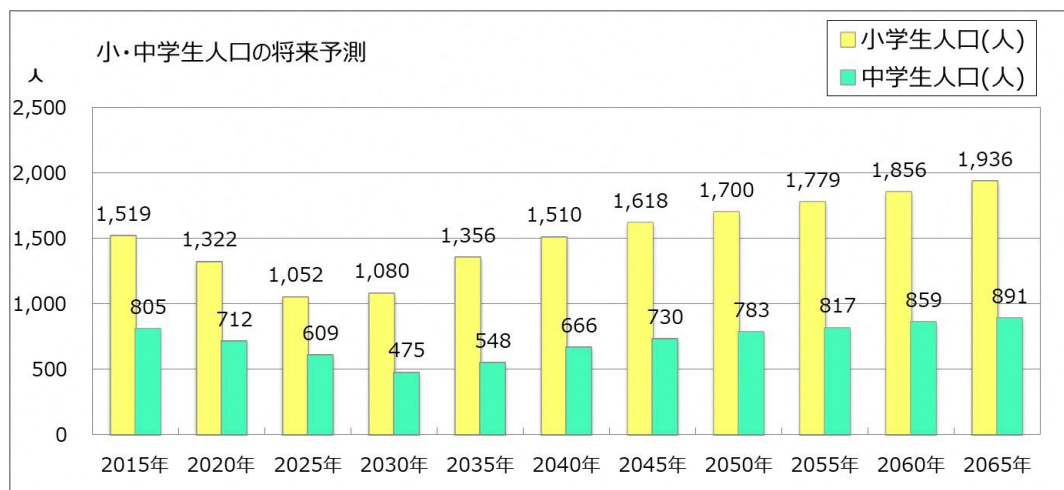
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。
合計特殊出生率の2020～2025年の目標値は本来、1.52であるが鹿角市ではすでに1.54と算出されたためこの値を採用した。

i. 人口と高齢化予測



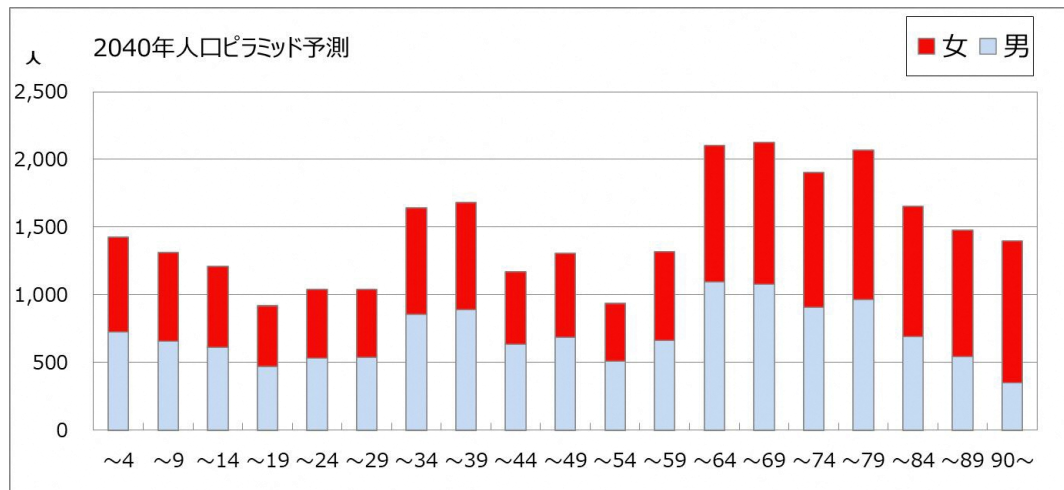
2020年人口の1.15%に相当する人数を毎年、呼び込むことが出来れば、人口総数、高齢化率ともに長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数は、2030年頃からは増加に転じる。2040年には現在の小・中学生数を上回る程度まで回復すると推計された。次頁に示す人口ピラミッドはこの年代層の取り戻しがあって初めて安定的な状態を示すものである。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



60 代前半～70 代後半にかけてピークがあるのは現状推移モデルと同じである(人数は増加している)。しかし、その他にも 30 代とその子ども世代である 10 歳未満の年代層にもピークが確認出来るため、現状推移モデルと比較しても厚みのある年代構成となることが予測される。

③ 人口分析・推計（鹿角市内全地区）

次に鹿角市内全地区における人口分析・推計結果を掲載する。その内、2015～2020 年の地区別コーホート変化率については一覧表で、それ以外の主だった分析・推計については地図上で色分けした図で表示する。

次頁に示した 2015～2020 年鹿角市地区別コーホート変化率の表からは人口動態は地区別に異なっており、それぞれの地区に適した独自の対策が必要であることが伺える。

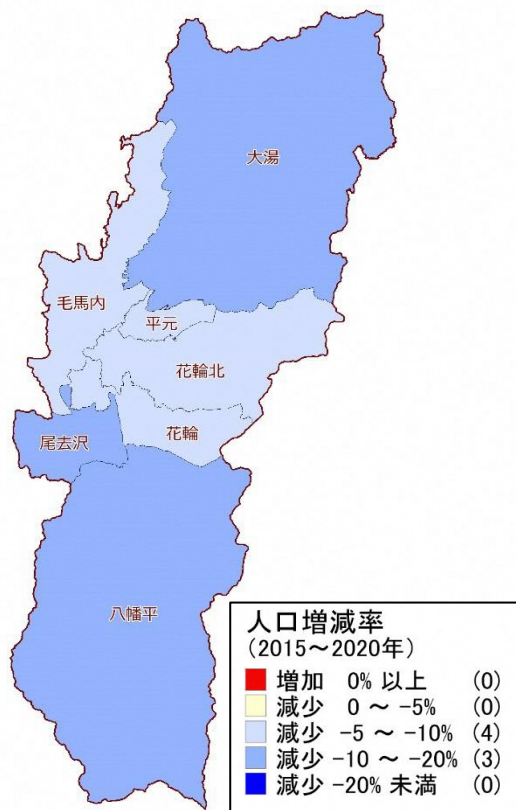
その次に図示した分析項目は人口増減率（2015～2020 年）、高齢化率（2020 年）、社会増減率（2015～2020 年）、4 歳以下増減率（2015～2020 年）、小学生増減率（2015～2020 年）、30 代女性コーホート増減率（2015～2020 年）、人口増減率予測（2020～2050 年）、2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比％）である。この分析・推計結果は市内全地区が表示された地図上に色分けして表示する。結果の評価については良い場合の暖色（赤色）から悪い場合の寒色（青色）まで段階的に表示している。

■2015～2020 年鹿角市地区別コーホート変化率

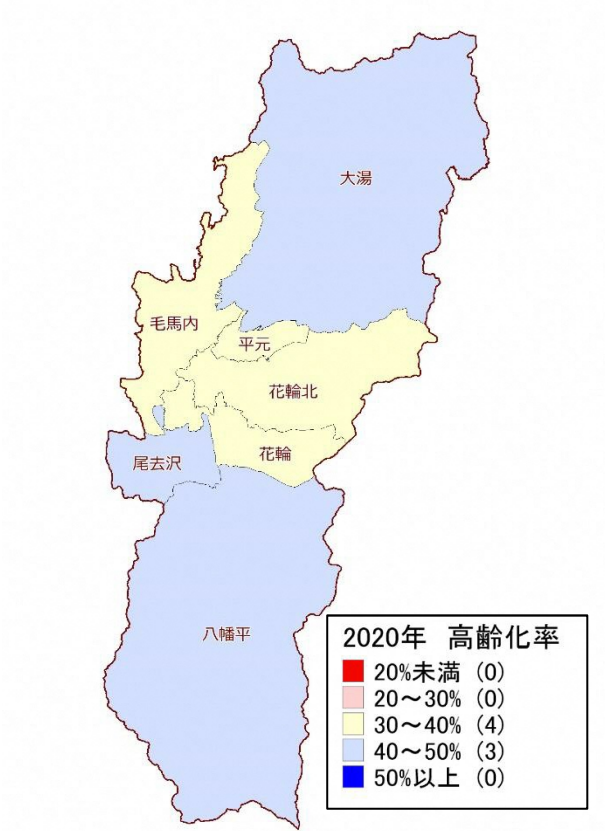
地区名	性別	0～4 歳	5～9 歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳
八幡平	男	0.65	1.04	0.93	0.86	0.66	0.80	0.94	0.87	0.92	1.01	0.97	0.99	0.95	0.94	0.90	0.83
	女	0.47	0.94	0.95	0.88	0.59	0.62	1.08	0.93	0.90	0.97	0.95	1.01	0.98	0.94	0.96	0.90
尾去沢	男	0.63	0.95	1.07	0.96	0.54	0.73	0.75	0.91	0.99	1.03	0.96	1.05	0.93	0.94	0.89	0.80
	女	0.47	1.03	0.90	0.88	0.58	0.64	0.77	0.89	1.00	0.95	0.99	0.92	0.96	0.95	0.96	0.91
毛馬内	男	0.67	1.06	0.98	0.88	0.68	0.93	1.11	1.04	0.94	0.97	0.97	0.98	1.00	0.97	0.96	0.85
	女	0.60	1.01	1.02	0.86	0.54	0.92	1.04	0.97	1.02	0.98	0.94	0.96	0.98	1.00	0.99	0.95
大湯	男	0.74	1.00	1.04	0.92	0.61	0.68	0.82	0.97	0.92	0.92	1.04	0.95	0.92	0.91	0.94	0.87
	女	0.95	1.16	0.91	0.71	0.52	0.76	0.81	0.99	0.98	1.00	1.01	1.00	1.01	0.96	0.96	0.94
花輪	男	0.94	0.92	0.99	0.89	0.78	1.06	1.05	0.96	0.97	0.96	0.95	0.98	1.02	0.99	0.92	0.89
	女	0.89	0.99	1.06	0.86	0.61	0.97	1.01	0.99	0.93	0.96	1.00	1.01	0.98	0.99	0.97	0.95
花輪北	男	0.92	0.90	1.02	0.86	0.79	0.73	0.99	1.02	0.97	0.96	0.95	0.97	0.94	0.95	0.90	0.86
	女	0.88	0.91	0.92	0.97	0.70	0.87	0.96	1.02	1.02	1.01	0.95	1.01	0.97	1.01	0.96	0.95
平元	男	0.57	0.91	0.97	0.97	0.59	0.75	1.05	1.00	0.98	1.00	0.93	0.98	0.97	0.97	0.87	0.88
	女	0.70	1.07	0.94	0.88	0.49	0.81	1.06	1.06	0.92	1.02	1.03	1.00	1.02	0.92	1.00	0.91

注：コーホート変化率の計算方法は参考資料に掲載のとおり。

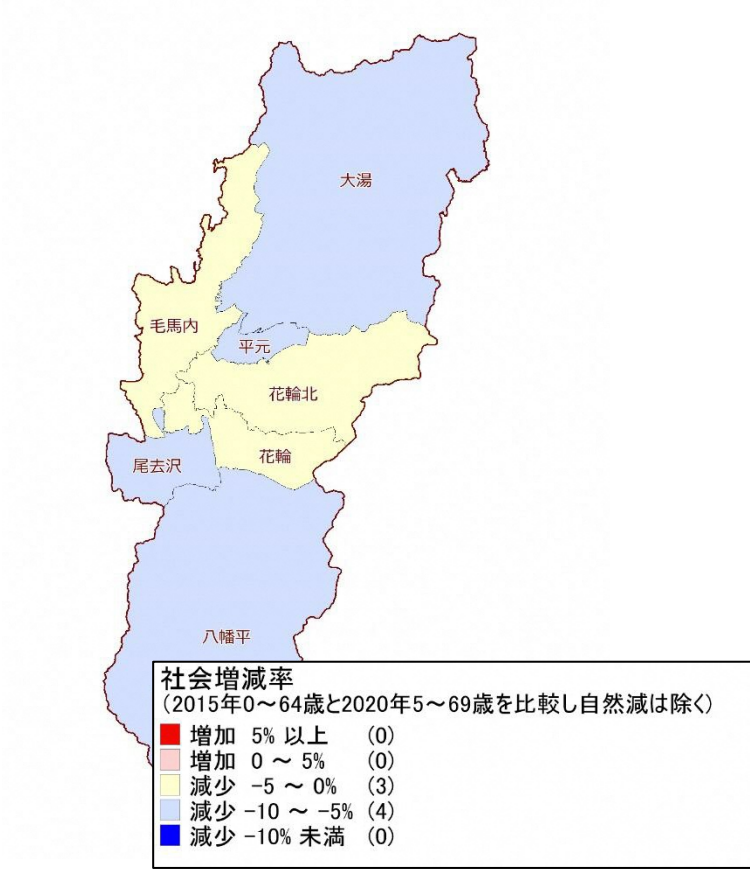
■人口増減率（2015～2020 年）



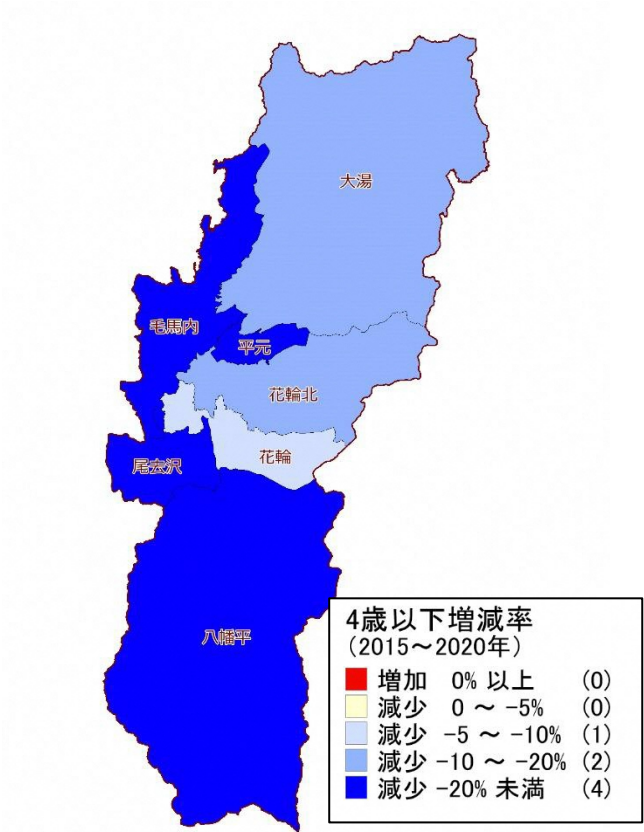
■高齢化率（2020 年）



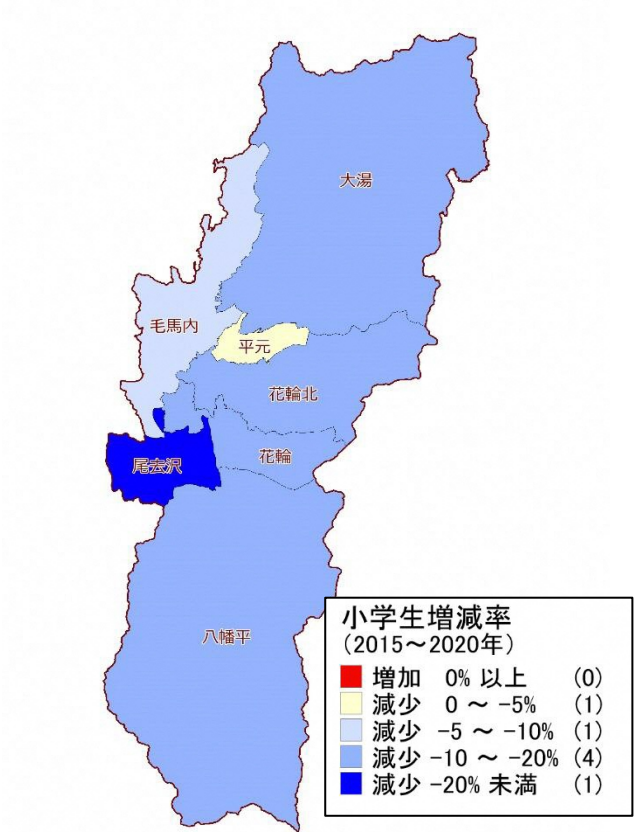
■社会増減率（2015～2020 年）



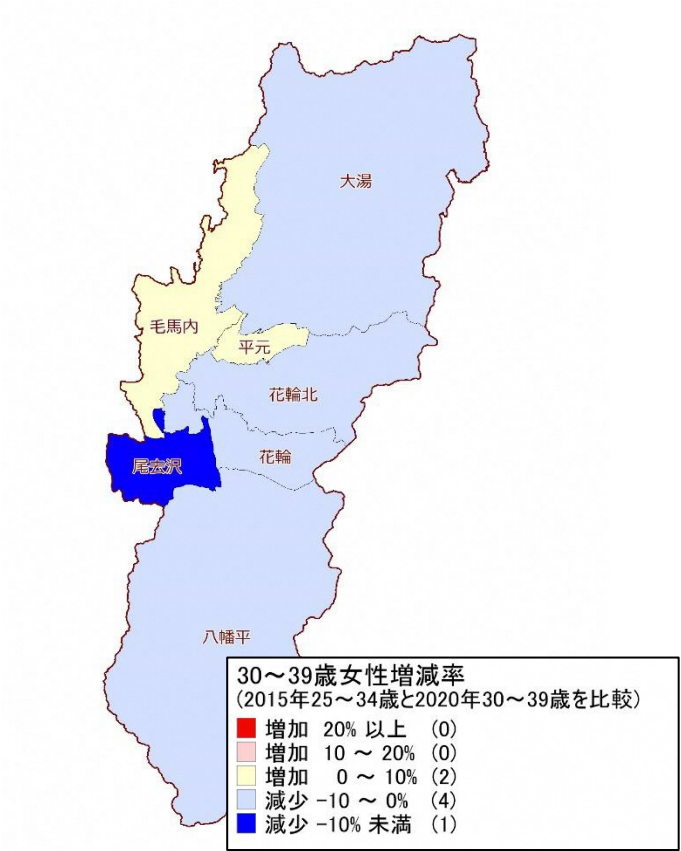
■ 4 歳以下増減率（2015～2020 年）



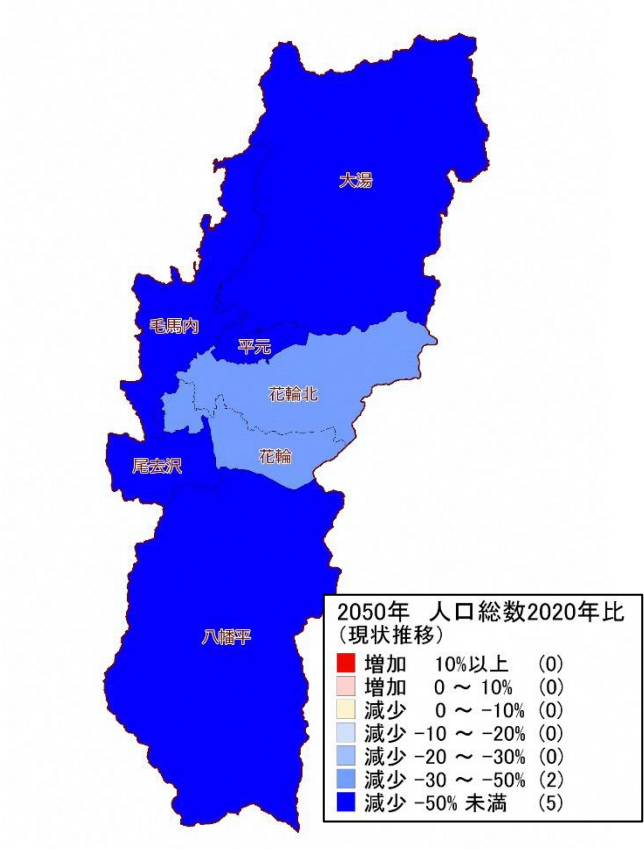
■ 小学生増減率（2015～2020 年）



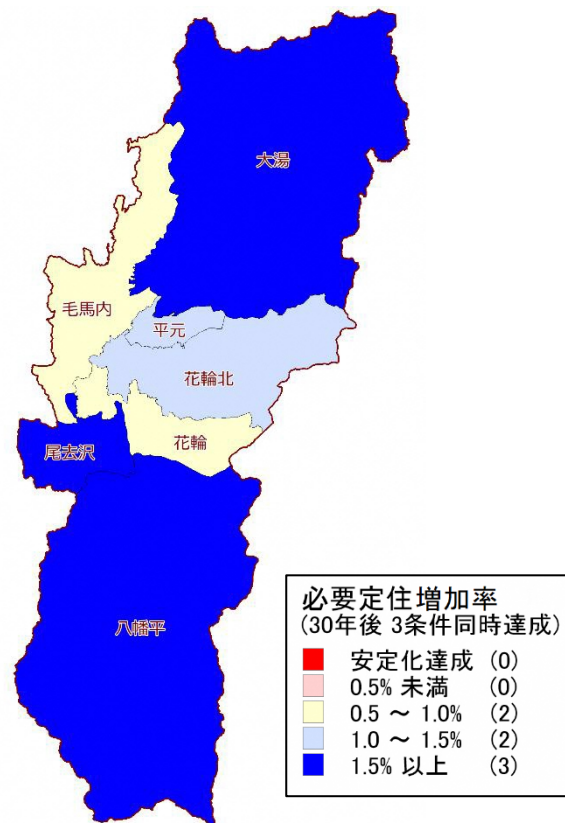
■30代女性コーホート増減率（2015～2020年）



■人口増減率予測（2020～2050年）



■2050 年に人口安定化を達成するために必要な毎年の定住増加率（2020 年人口比％）



④ モデル地区（鹿角市平元地区）の概要

鹿角市は7地区から構成されており、その内平元地区をモデル地区として本事業を実施した。平元地区は旧花輪町に位置し、平元小学校区と同範囲であり、7つの自治会から構成されている。人口1,370人、499世帯、高齢化率38.0%（2020年12月当時）の鹿角市の中央部に位置する地区である。地区内の小学校は1校となっている。

平元地区では果樹と畜産の分野が盛んで、桃や短角牛の生産は特に盛んとなっている。この農業部門には県外からの移住者の受け皿的機能を果たしている農業団体が存在していることが特徴として挙げられる（例えば、主にブルーベリーを栽培・販売しているかづの精果園等）。このような農業団体は東日本圏内にとどまらず、関西方面からの若手移住者（農業従事者）の受け入れにも貢献している。平元地区の短角牛においては、世界中の美食を求め旅をしたサッカー元日本代表の中田英寿氏も視察に訪れた過去がある。

地区内にある平元小学校は今年度で閉校予定であり、一部を除きその利活用がまだ定まっていない現状がある。地域の小学校は地元住民にとって思い出が詰まった場所であり、平元地区もその例外ではない。今回の平元地区の活性化に向けたワークショップ等では、この校舎の利活用に関する声が最も多く上がったほど、地域全体の関心は高い。

その他、地区内の団体や組織に関してはヒアリング調査から作成した次頁の地元関係図にまとめたので参照いただきたい。



かづの牛（日本短角種）



かづの精果園



かづの北限の桃

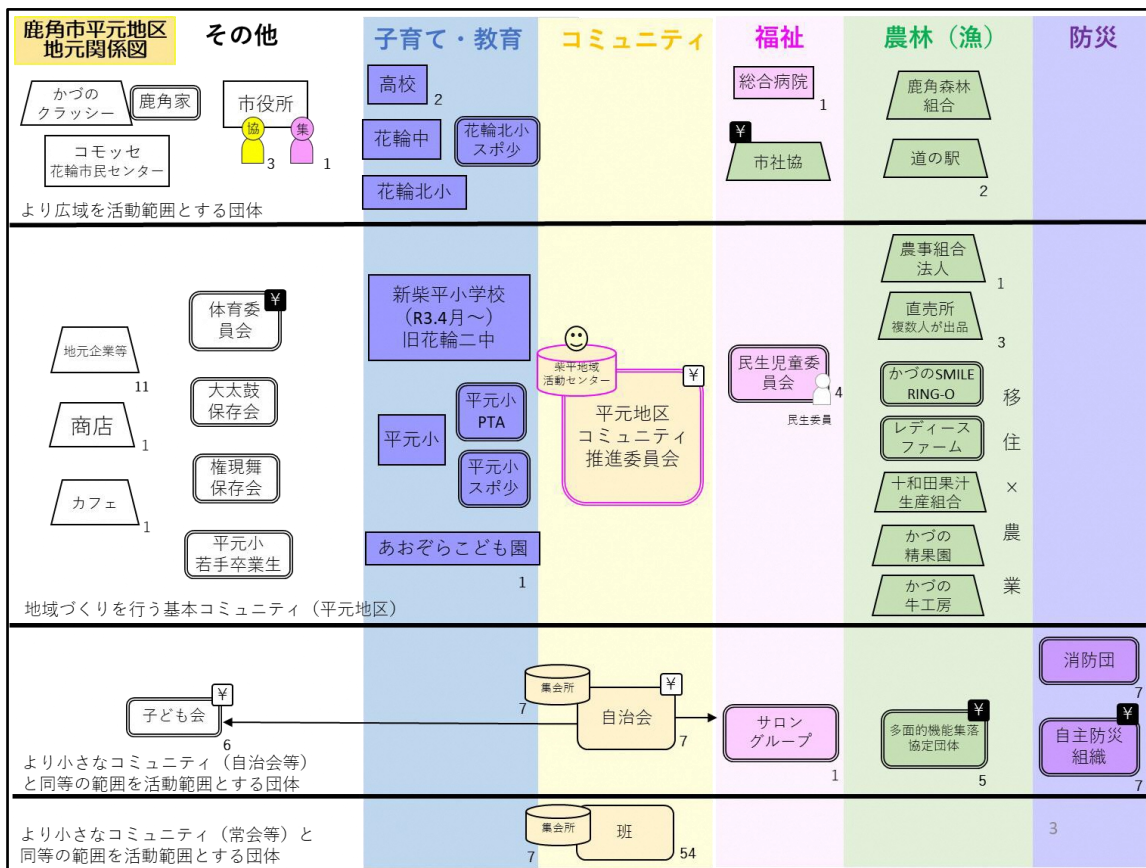


図 平元地区の地元関係図

注：□の¥は地域住民から集めたお金、■の¥は行政からの交付金・補助金を表現。

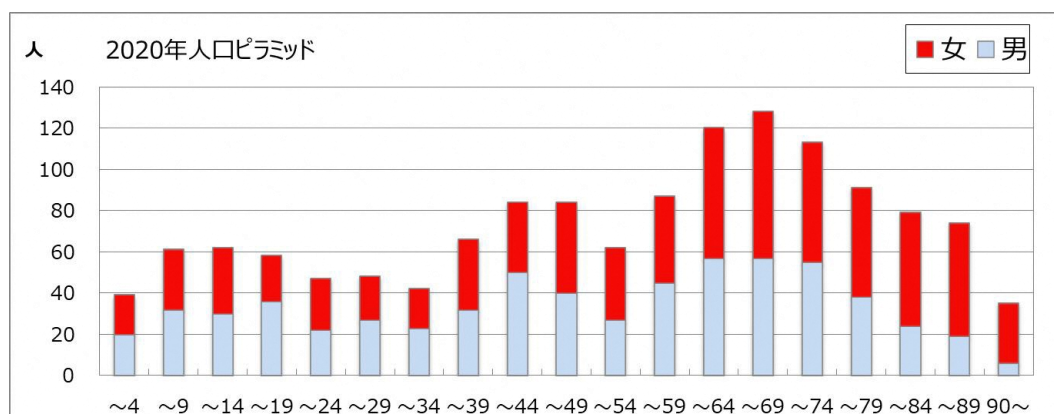
⑤ 人口分析・推計（鹿角市平元地区）

鹿角市全体での人口の現状分析、パターン別人口推計シミュレーションと同様の分析と検討を平元地区においても行った。

1) 現状分析（2015～2020 年）

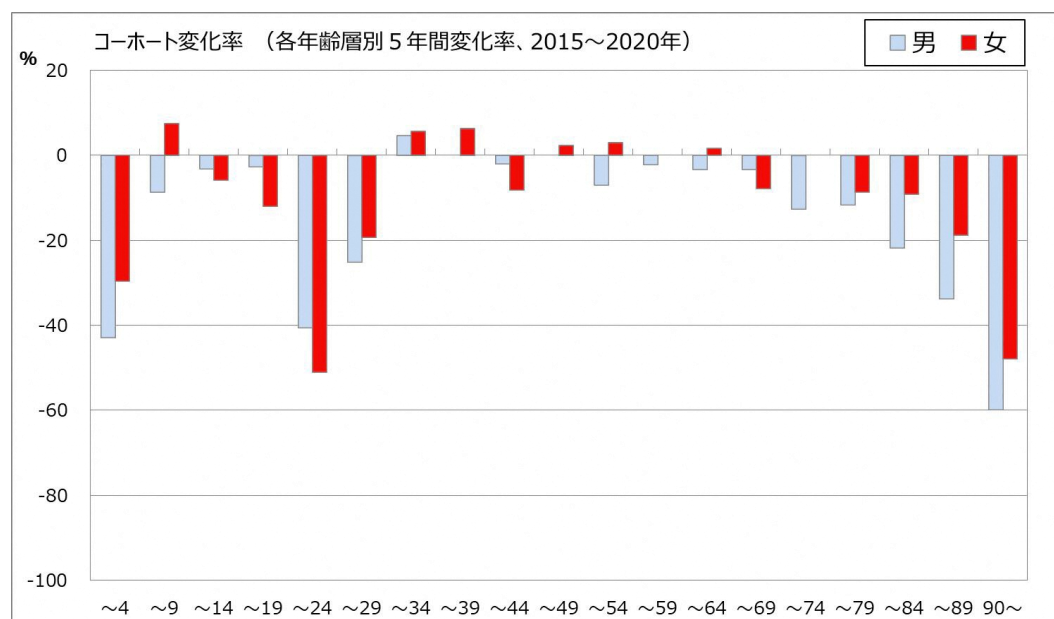
平元地区における人口構成、過去 5 年間（2015～2020 年）の人口動態の推移を示す。

i. 年代別人口構成



最多は60代後半の128人、最少は0～4歳の39人となっています。20代後半や30代前半の女性割合が低いことから次世代の人口減の要因になると推測出来る。また、50代前半の人口がその前後の年代の人口よりも低い傾向にある。これは鹿角市全体でも同様の傾向にあり、平元地区というよりは鹿角市の特徴であると思われる。

ii. 年代別コーホート変化率

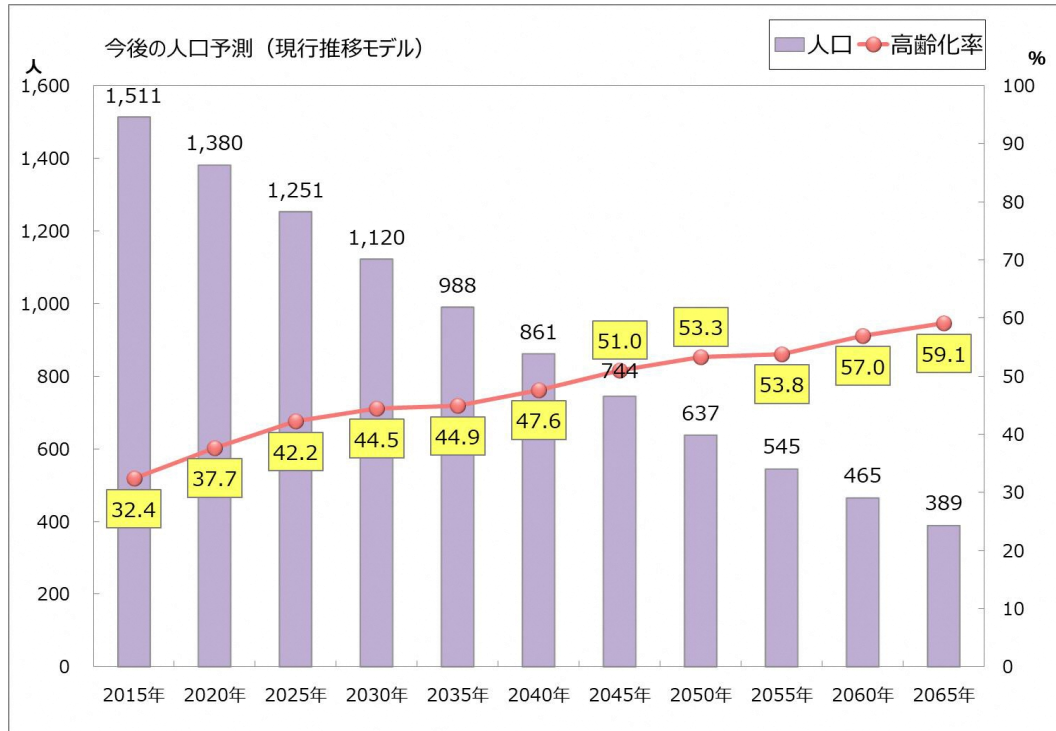


5～9歳女性、30代前半男女、30代後半女性、40代後半女性、50代前半女性、60代前半女性が増加しています。しかし、20代の減少分を取り戻すには至っていません。

2) 現状推移シナリオ

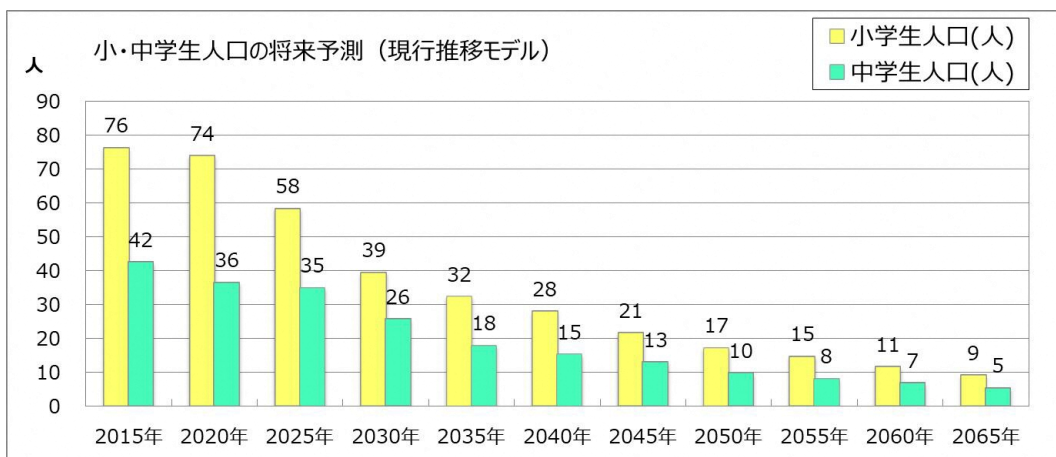
平元地区における過去5年間（2015～2020年）の人口動態が今後も続いた場合の人口推移を検討していく。

i. 人口と高齢化率予測



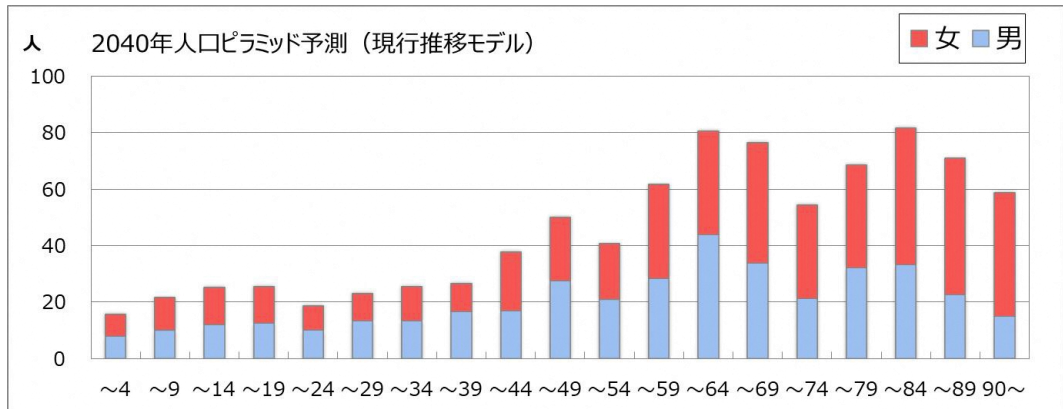
鹿角市全体とほぼ同様の傾向で人口減少と高齢化率が高まるものと思われる。人口は2020年比で2040年には62.4%、2065年には28.2%まで減少すると推計されている。

ii. 小・中学生数予測



小・中学生数も著しい減少となり、その減少幅は上記の地区の全人口と比べても非常に大きいものとなる。2020年比で2040年には39.1%、2065年には12.7%まで減少し、その実数は14人と推計されている。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



ピークが80代前半に推移し81人となっている。60代にもピークがあり80人弱の人数を保ってはいるが、それより若い年代は急激に減少し40代前半より若い年代はそれぞれ30人に満たなくなると推計された。20年後よりさらにその先は一層、厳しい人口構成になると推測された。

3）人口安定化シナリオ

鹿角市全体での検討と同様に平元地区においても人口安定化シナリオを検討する。この検討には合計特殊出生率、10代後半の流出率、定住増加数の3つの要素を組み合わせる。

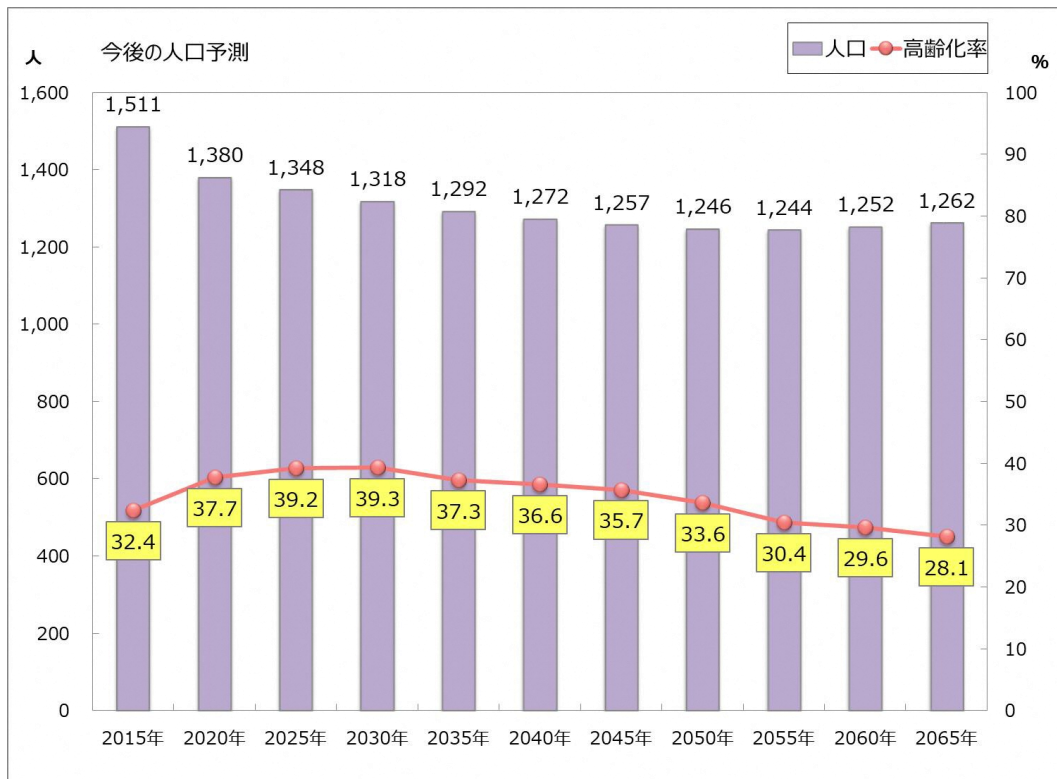
今回の組み合わせでは、出生率は2015年に策定された鹿角市人口ビジョンの推計に準じながらも、より緩やかに回復すると仮定し2040年には1.94、2045年以降は2.07へと段階的に上昇させる設定とした。10代後半の流出率は現状の半分となるように設定した（詳細は参考資料に記載）。10代後半の流出率を半分に抑制するという仮定は現実には多くの困難が予想される。しかしながら、この部分を具体的に検討する端緒となることを期待しこの設定とした。定住増加数の対象は20代前半夫婦、30代前半子連れ夫婦、60代前半夫婦の3世代として毎年各2.1組の誘致数とした。以上の条件設定で、出生率、流出率、定住増加数の3要素を組み合わせた人口安定化シナリオを検討する（下表参照）。

表 人口安定化シナリオの設定数値

合計特殊出生率（％）		10代後半流出率（％）		定住増加数・率/年	
2020～2025年	1.58	現状	設定値	各世代（世帯）	2.1
2025～2030年	1.63	男性	41	20	合計世帯数（世帯） 6.3
2030～2035年	1.73	女性	51	25	合計人数（人） 14.7
2035～2040年	1.83			2020年人口比（％）	1.07
2040～2045年	1.94				
2045年以降	2.07				

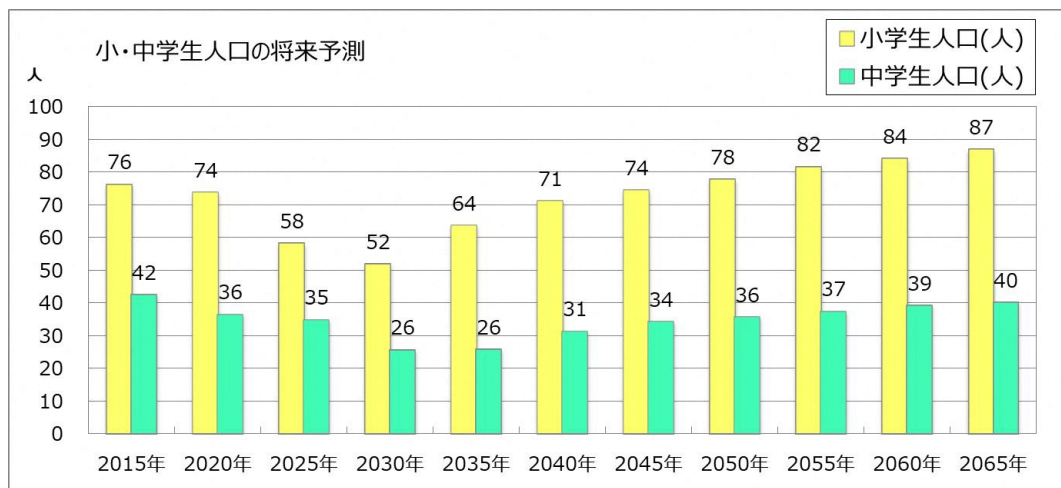
注：20代前半夫婦は1組（世帯）2人、30代前半子連れ夫婦は1組（世帯）3人、60代前半夫婦は1組（世帯）2人と設定。
合計特殊出生率の2020～2025年の目標値は本来、1.52であるが平元地区ではすでに1.58と算出されたためこの値を採用した。

i. 人口と高齢化予測



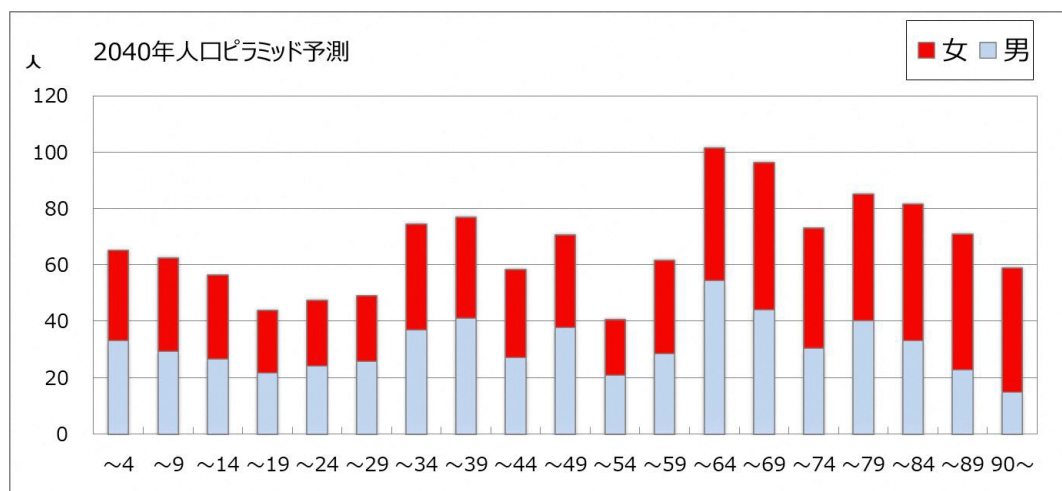
人口総数、高齢化率とも、長期にわたり安定化が達成される。

ii. 小・中学生数予測



子育て夫婦や若者夫婦の継続的な定住が達成されれば小・中学生数は、2035年頃からは増加に転じ2045年には現在の小・中学生数と同程度に回復すると推計される。

iii. 2040 年（20 年後）の年代別人口構成



地域活動の主力でもある 60 代が増加し、その一世代後、二世代後の年齢層である 30 代や 10 代以下の世代に厚みが見られるようになると推計された。

⑥ ワークショップ（1回目）（人口安定化ワークショップ）

1) 目的

本業務の目的でもある具体的な定住促進策の検討には住民の参加が求められる。当ワークショップでは、住民の方々に地域の人口動態を再確認いただき、移住者がどのくらい増えれば地域の人口はどのように変化するのか具体的にシミュレーションいただいた。その上で目標とすべき移住者誘致数や地域人口の安定化を検討することを目的として行った。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年10月9日（金）18：00－20：00
 - ・場所 鹿角市柴平地域活動センター
 - ・参加者 地域住民（24名）、鹿角市職員、秋田県職員、NPO法人秋田県北NPO支援センター理事等
- A～Dの4班に市職員等が数名配置され、各班6名前後の構成

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の野口氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・人口動態の増減要因分析として自らの地区の2015年から2020年の各年代、男女別の人口動態（コーホート変化率）を確認し、その増減要因を分析
- ・人口推計シミュレーションプログラムを実際に体験し、人口安定化に向けた具体的な移住者数の検討

■当日の様子



3) 人口動態の増減要因分析

この作業では参加者に対して平元地区の年代別コーホート変化率のグラフを提示しながら、各年代の増減要因を検討いただいた。各班の検討結果の要約・抜粋が次頁表である。

表 平元地区における人口増減要因分析結果の要約・抜粋

年齢	人口増加要因	人口減少要因
0～4		
5～9	30代夫婦と子どもの転居	
10～14		
15～19		看護師など女性が多い職種への進学・就職
20～24	製造・工業系で男性の雇用先充実	看護師など女性が多い職種への進学・就職 結婚で転出
25～29	仕事の種類が多い	結婚で転出 戻っても仕事が無い 娯楽が無い
30～34	適応能力が女子は高い	娯楽が無い
35～39	結婚で転入 鳥野分譲地への転入 離婚による帰郷	
40～44		転勤や子どもの進学等による転出
45～49		
50～54	介護等による転入	
55～59	介護等による転入 定年移住	
60～64	定年移住	
65～		施設に入居

平元地区の大きな特徴として「20歳前後の女性流出」が著しいことが挙げられ、この表からはその大きな要因が伺える。看護師や事務職等女性に人気がある仕事や進学先を求め市外に出て行っているという要因が、この時のワークショップから多く挙げられた。逆に、30代のUターン組も見受けられ、その転入の大きな要因としては「離婚による女性の帰郷」、「平元地区内の分譲地への転入」等が挙げられた。

以上のことから20～30代が住み良い環境整備、仕事の斡旋等が平元地区の人口安定化の課題として浮上したところである。

4) 人口安定化のシナリオづくり

次に人口推計シミュレーションプログラムを使用し 20 代前半夫婦、30 代前半子連れ夫婦、60 代前半夫婦の 3 世代の目標誘致数を検討いただいた。その際、現実的に達成したい現実版の目標と、可能ならばこれくらい来て欲しいという理想版の目標を立てていただいた（下表参照）。なお 10 代後半流出率削減目標については現在の男性 41%、女性 51 %を両者とも 40%に設定した。合計特殊出生率については現在の 1.58 から 2045 年までに 1.80 へ上昇するよう設定した。人口安定化をより身近に感じていただくために、この流出率削減目標と合計特殊出生率は「⑤— 3) 人口安定化シナリオ」で設定した数値よりも緩やかな数値目標とした。

表 平元地区における検討された人口安定化シナリオ

		班				単位
項目		A	B	C	D	
誘致世帯数・人数/年 目標						組
20代前半夫婦	現実版	0	0.75	0	1	
	理想版	1.5	3	2	1	
30代前半子連れ夫婦	現実版	0.25	0.75	2	3	
	理想版	1	3	3	4	
60代前半夫婦	現実版	0.25	0.25	1	1	
	理想版	1.5	1	1	1	
合計人数	現実版	1.25	4.25	8	13	
	理想版	9	17	15	16	

各班でシミュレーションした結果、共通の傾向が浮かび上がった。まず 20 代前半夫婦の誘致についてだが、平元地区からの流出率が著しい世代でもあるせいか、現実版では 0 ～ 1 組までと低い数値設定となった。しかし、一番活力がある世代でもあるので、期待の意味も込めて理想版では 1.5 ～ 3 組と高い数値が設定された。30 代前半子連れ夫婦に関しては、この世代が少しずつ戻って来ている関係からも、現実版および理想版での数値が 3 世代の中で一番高く設定された。60 代前半夫婦に関しては、この世代は平元地区の主力世代でもあるせいか、現実版および理想版とも低めの数値が設定されていた。

具体的な検討結果を 1 つ紹介すると、C 班の現実版としては次に示した通りとなる。30 代前半子連れ夫婦を 2 組、60 代前半夫婦を 1 組ずつ毎年迎え入れても、人口は 2065 年頃には 2020 年比で約半数に落ち込んでしまうが、小・中学生数は 2035 年頃からは 2020 年比で 50 ～ 60 %ではあるが、安定する結果となった。したがって、高齢化率も 2045 年をピークにその後は減少傾向となった。

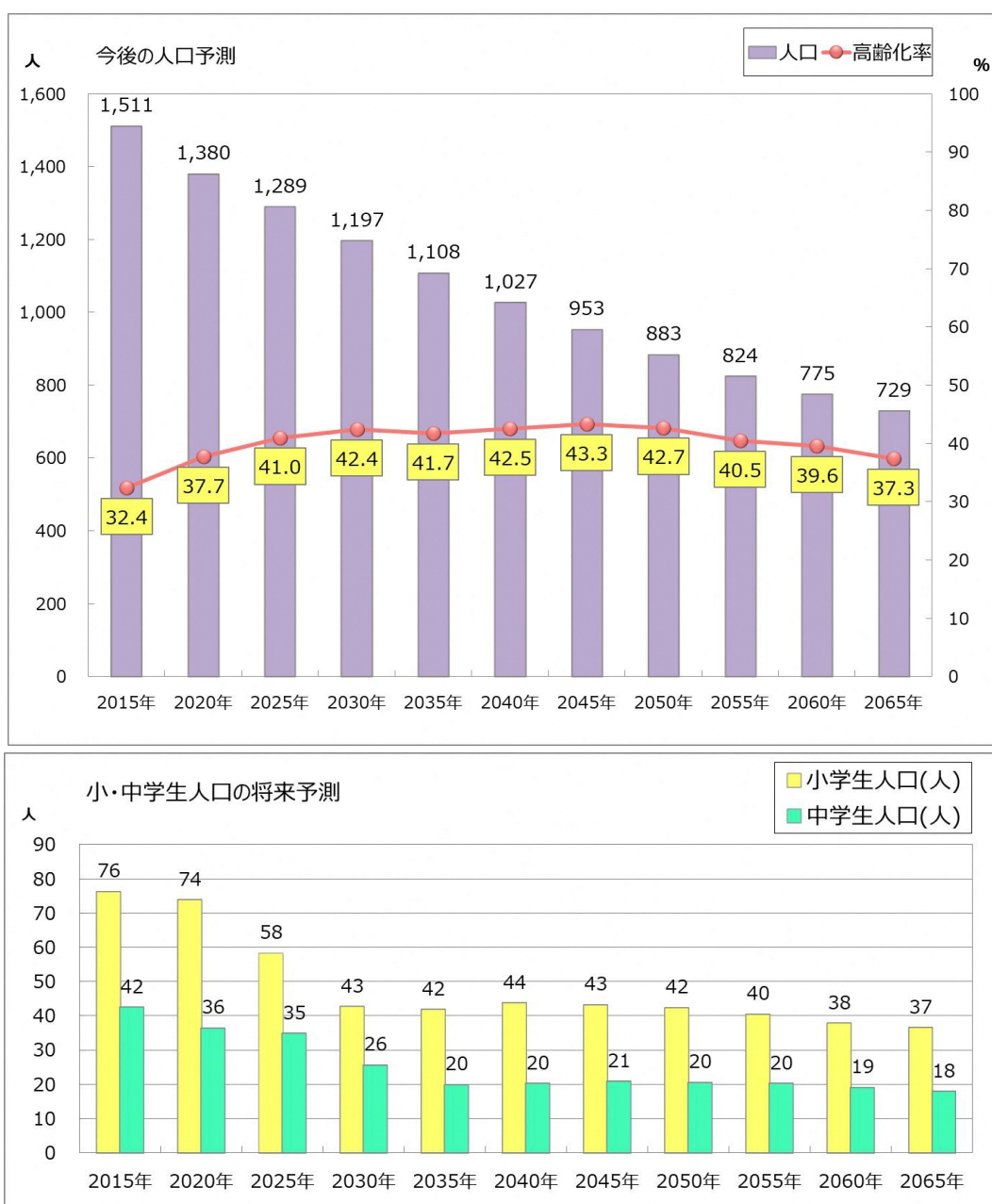


図 平元地区 C 班現実版の検討結果 人口と高齢化予測（上）と小・中学生数予測（下）

5) まとめ

本ワークショップでは地域の年配男性で構成された班が2つ、女性の班が1つ、若い男性の班が1つという計4つの班でワークショップを行なったが、どの班も共通して現実版の数値設定に苦戦していた。地域の人口減少のスピードが著しく、現実版であっても高めの数値設定にしなければ人口安定化が図れなかった。このことで「このまま何もしないと平元地区はマズい」という危機感の芽生えが起きたと感じている。

現実版の数値を目標に「何をすべきか？何が課題か？」という意見交換が、このワークショップの際にも出始めていたので、それを具体的に話し合う次回のワークショップへの機運もこのタイミングで醸成されたように思えた。

⑦ ワークショップ（２回目）（地元天気図ワークショップ）

1) 目的

ワークショップ（１回目）を受けて、このワークショップでは地元関係図を基に地域の現状と定住促進を可能とする将来像について検討を行った。地域の行動計画（グランドデザイン）策定の一助、あるいは地域の拠点づくりや実際に移住者を呼び込むという動きを生み出す端緒となることを念頭に置いている。実施地域における今後の検討材料として活用いただきたい。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020 年 11 月 27 日（金）18：00－20：00
- ・場所 鹿角市柴平地域活動センター
- ・参加者 地域住民（19 名）、鹿角市職員、秋田県職員、NPO 法人秋田県北 NPO 支援センター理事等
A～D の 4 班に市職員等が数名配置され、各班 6 名前後の構成

■実施・作業内容

- ・一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所の野口氏による当日の作業内容等の概要説明
- ・地元天気図ワークショップとして現状と定住促進に向けた地元天気図の作成と地域の定住促進策の検討（テーマ 30 代女性が定住するとしたら）
前半は地域の現状や課題を確認するため、施設、組織等について強みや弱み、関係性を検討し現時点での地元天気図を作成
後半は前半で確認した地元天気図にどのような要素が加われば、30 代女性が移住・定住しやすくなるのかを検討し将来展望を加味した地元天気図を作成

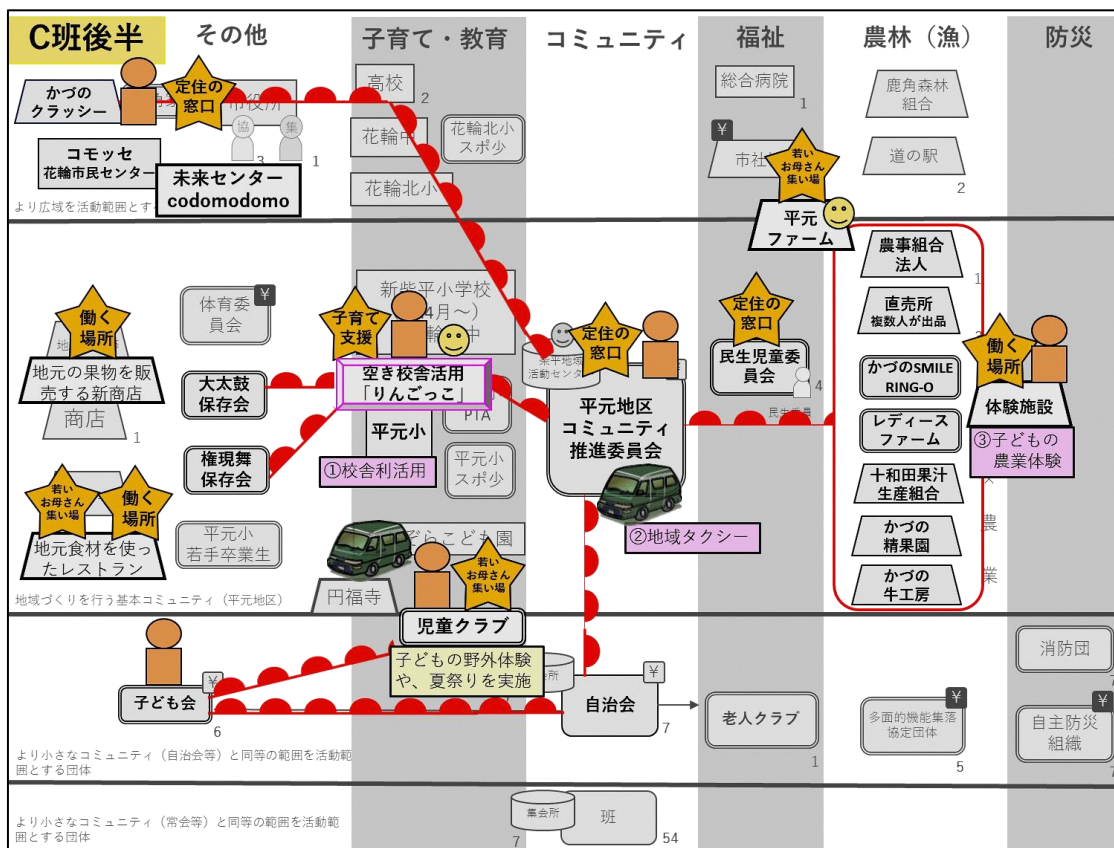
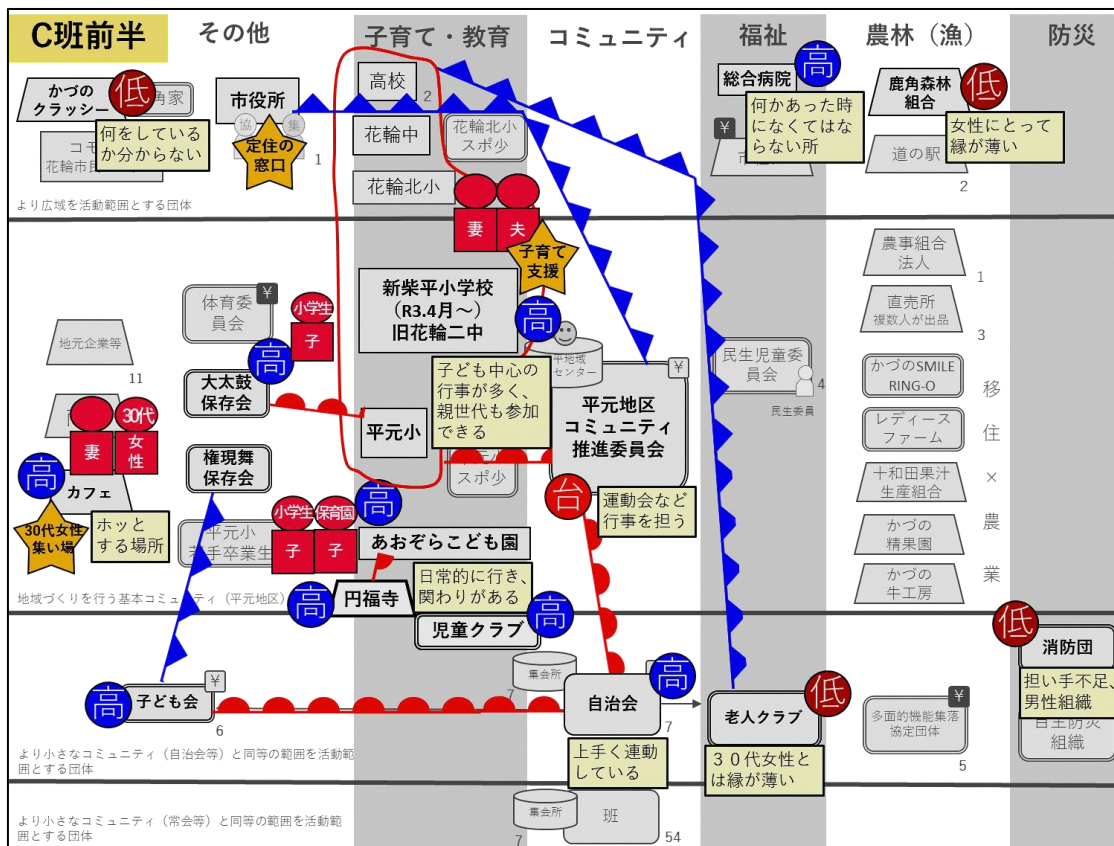
■当日の様子



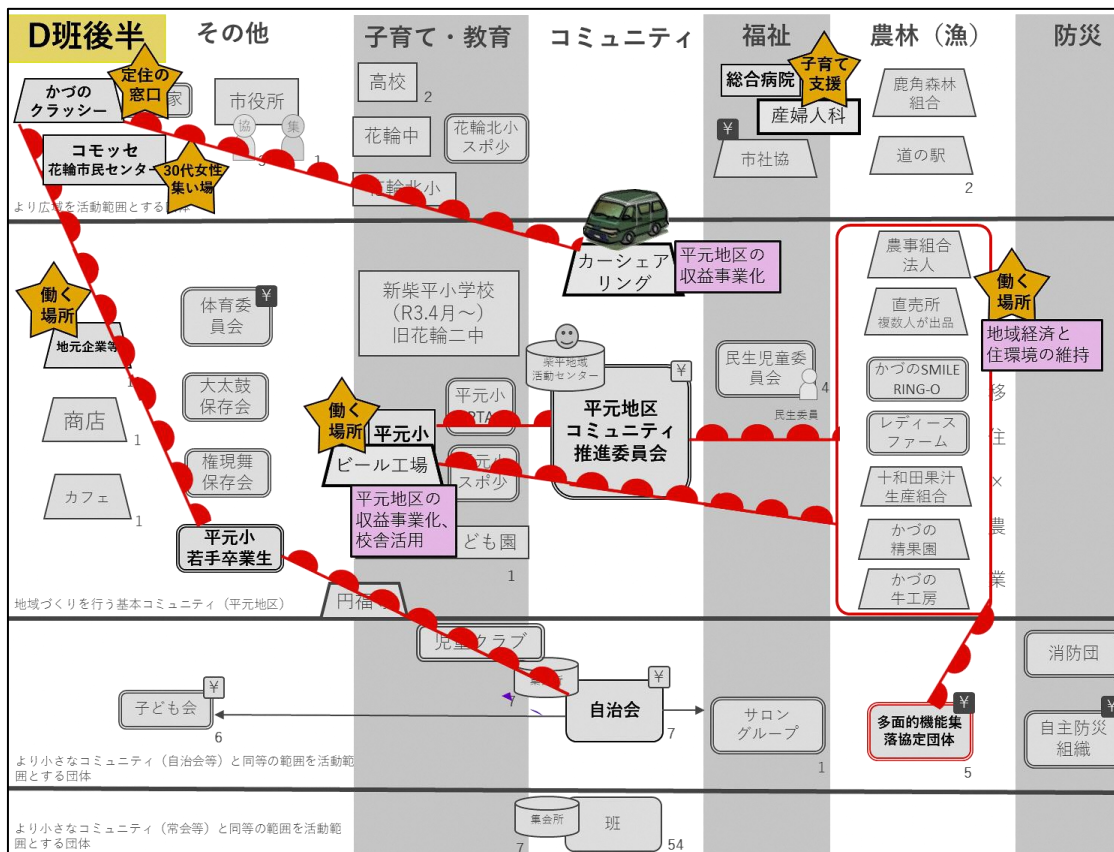
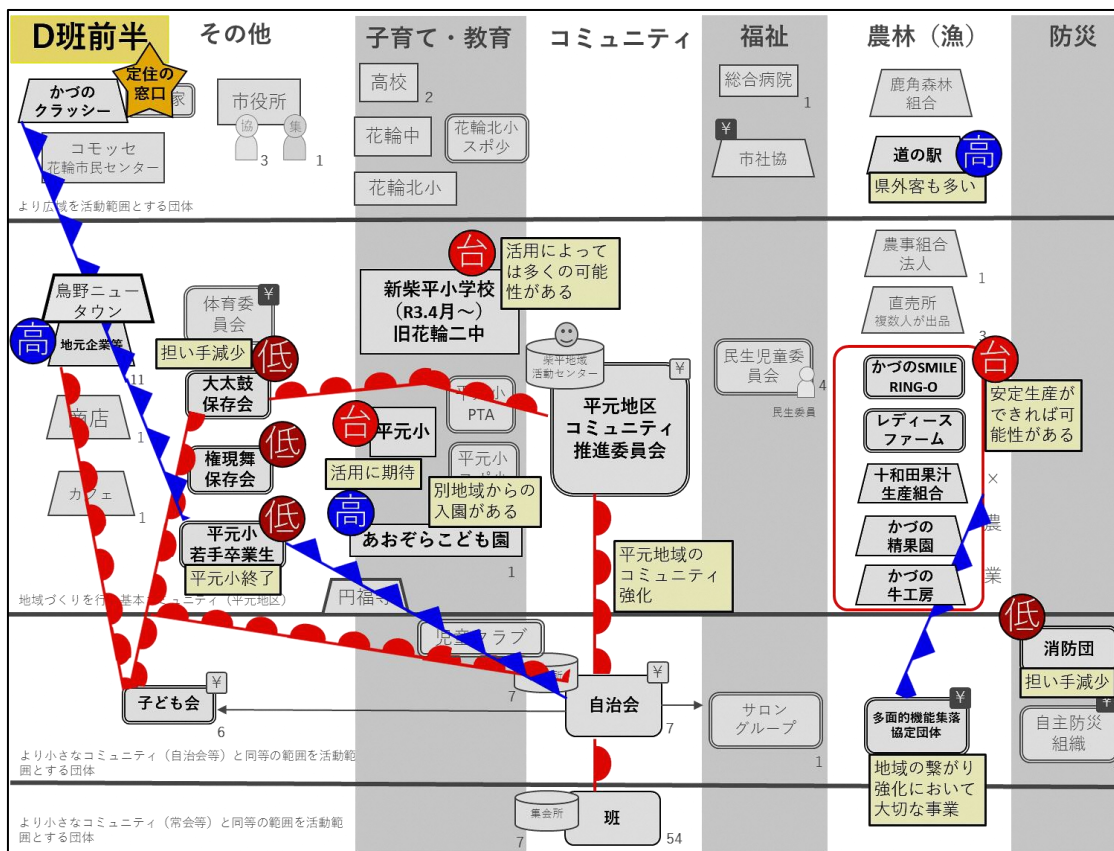
3) 検討結果

平元地区では 4 班構成で作業が行われた。その中で例として 30～40 代の女性がメンバーの大半だった C 班、30～40 代の男性がメンバーの大半だった D 班の検討結果を表示する（「④モデル地区（鹿角市平元地区）の概要」に掲載した地元関係図と併せてご覧いただきたい）。

C 班の地元天気図（上半・下半）



D班の地元天気図（上前半・下後半）



4) まとめ

地元天気図を提示した C 班、D 班について概略を記載したい。

C 班は 20～40 代の女性グループで、前半の検討では「子育て世代の視点」から地域の現状や課題の確認がされた。男性で構成された他の班ではあまり着目されなかったこととして、若い母親や子どもの地域の拠り所が複数確認出来た。地域内にあるカフェやお寺等がその一例である。平元小学校と地域のつながりの濃さも話題として挙がり、そのポテンシャルを活かした取組みの話題は後半部分で深掘りされていった。老人クラブ、森林組合、消防団といった組織とは逆につながりが弱く、それらの組織の共通点としては「男性主体」が挙げられ、かづのクラッシーは県外からの移住者で構成されており、まだ地域との関わりが薄い状況にあった。

後半の検討では、平元小学校の閉校後の校舎利活用を軸に話し合いが行われていった。平元地区コミュニティ推進委員会との連携をベースに、子育て支援の拠点とするアイデアが浮かび上がった。そして、若い女性の集いの場となり、雇用を生み出す地元食材を使ったレストランもアイデアとして出た。移住定住の促進においては、かづのクラッシーとの関係構築、平元地区コミュニティ推進委員会の機能強化を図ることが出来ればという声が挙がった。

D 班は 20～40 代の男性グループで、前半の検討では「子どもの生育環境」、「農業分野の可能性」についての議論が中心に行われていった。この D 班のメンバーは平元地区で生まれ育った青年層が中心となっているため、自らが子どもの頃の状況と少子高齢化が進んだ現在の状況の比較がまず行われた。この班は働き盛りの世代でもあるので、地域の主産業でもある農業に関しての議論も活発に行われ、安定生産や販路開拓によって大きな可能性があるとして、「平元地区の農業」を台風の目として位置付けるに至った。C 班同様に平元小学校の校舎の利活用に関しても議論が交わされていた。

後半の検討では、「働く場所」をいかに確保するかという点が議論の中心となった。その少なさが人口流出の一番の課題であり、人口安定化の肝になるという共通認識がメンバー間にあった。校舎をビール工場としたり、小さな収入源の掛け合わせで地域の仕事（主に農業分野）を斡旋したりといった具体的なアイデアが浮上した。公益性を重視したカーシェアリング事業によって、平元地区への収益を上げることで、コミュニティの活動を幅を広げていくアイデアも挙がった。

掲載していないその他の班について簡単に記載する。残り 2 班は両方とも 50 代以上の男性メンバーで構成されており、前半の検討では平元地区コミュニティ推進委員会や、各自治会等既存の組織の高齢化と、女性の参画促進の必要性が強調されていた。後半の検討では平元小学校の校舎を農家レストランとして活用するアイデアが両グループから出され、そこを交流拠点の場、雇用の場とし、食材を供給する農業法人も恩恵を受ける仕組みをつくる必要性が説かれていた。

全グループにおける共通点は「平元小学校の校舎の利活用」であり、それだけ地域住民の関心はそこに向いていると強く感じたところである。

⑧ 鹿角市報告会の開催概要

1) 目的

コミュニティ生活圏形成事業の概要と平元地区での取組の成果を基に、手法や手応えを鹿角市全体に発信・共有する目的で行われた。

2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2020年12月20日(日) 13:30-15:30
- ・場所 鹿角市交流センター
- ・参加 35名

■次第

第一部 講演 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩氏
2020年代は田園回帰の時代

～鹿角市の地区別人口予測の概要と全国的な先進事例の紹介～

第二部 パネルディスカッション

コミュニティ生活圏の形成に向けて

～今こそ定住と暮らしの土俵をつくる！～

(1) 平元地区からの取組報告

報告者	平元地区	兎澤 周平氏
	平元地区	児玉 明日美氏
	平元地区	大野 菜穂子氏

(2) パネルディスカッション

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

テーマ3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみで
つないでこんな仕組みをつくりたい

ま と め 今後に向けての抱負を漢字一文字で

コーディネーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

所長 藤山 浩氏

平元地区 兎澤 周平氏

平元地区 児玉 明日美氏

平元地区 大野 菜穂子氏

鹿角市移住コンシェルジュ 眞鍋 雄次氏

鹿角市市民共動課 川又 昭文氏

コメンテーター 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

特別研究員 野口 拓郎氏

■当日の様子



3) 内容紹介

本報告会では一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長藤山浩氏より本事業に関連して「2020年代は田園回帰の時代」という演題で講演いただいた。その後、ワークショップ参加者に成果を発表いただいた。パネルディスカッションでは地元住民等、5名の方々と業務を担当した野口氏に登壇いただきテーマに対してキーワード方式で、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。このパネルディスカッションの内容について抜粋し要約する。

テーマ1 次世代の定住増加の一番課題となっていること

児玉氏キーワード 「地域に対する自信」

「平元地区には誇れるものがいっぱいあるんだ」という自信を取り戻すことが地域の人口安定化においてまずは大事だと思う。

大野氏キーワード 「地域で遊ぶ文化」

「遊び」、「娯楽」を今の人達は求めすぎている。平元で遊べる文化をつくっていくことが重要だと感じている。

テーマ2 次世代の定住増加に向けて一番力を入れたいこと

真鍋氏キーワード 「検索に出てくる情報発信」

移住を促すに当たっても地域情報をネット上でしっかり発信していかないとダメな時代になっている。ヨソ者だからこそ出来る分野でもある。

川又氏キーワード 「女性のリーダーシップや感性を活かす」

男性の頑張りが目立ってはいるが、女性も十分に活躍出来る余地はあるはず。女性特有のリーダーシップや感性を今こそ活かすべきではと感じている。

テーマ3 集落同士が連携し、子育て、福祉、農林分野等を地域ぐるみでつないでこんな仕組みをつくりたい

兎澤氏キーワード 「地域の人材バンク」

地域の様々な課題を住民側も把握し、地域でどう解決するかという仕組みが必要だと感じる。そこで地域の人材バンクのような取組みは有効だと考えた。

野口氏キーワード 「『楽しい』が集まる校舎」

第1回のワークショップから今日に至るまで、平元地区の方々の最大の関心は「平元小学校の校舎利活用」にあったと強く感じた。校舎に行けば毎回「楽しい時間」、「楽しい人」に出会えるという仕組みをつくって欲しいと願っている。

まとめ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

大野氏キーワード 「風」

この度の一連の平元地区での取組みによって、今までなかなか吹き込まれなかった「風」を感じることが出来た。ここを出発点とし地域全体で頑張るときが来たのだと思う。

⑨ まとめ（成果と委託機関による方向性の提示）

この度の本事業の平元地区での取組みは、地域の核とも言える平元小学校の閉校を前にしての難しいタイミングであった。そして、各自治会単位での会合は今まで何度もあったが、「平元地区」としての会合はほぼ無かったため、最初は「平元地区」全体をいかに考えていくかに違和感を覚える参加者も多かった。そのような状況下からワークショップはスタートした。

ワークショップ（1回目）では、平元地区の人口減少の勢いが想像以上に増していることを全体で共有出来、今まで芽生え難かった危機感を覚えることが出来たと捉えている。人口安定化シナリオの検討では現実的な目標の設定も、高い数値を入れていかなければならない現状があった。しかし、そこにどう立ち向かっていくべきかという議論はワークショップ（1回目）の時点で議論が交わされており、平元地区の底力を感じたところであった。

ワークショップ（2回目）では、特に「子育て世代の女性」と「地域で稼ぐ」に焦点が当てられ、それを実現する拠点に平元小学校の校舎が選ばれた。ワークショップ（1回目）において若い女性の流出と、仕事の少なさが平元地区の大きな課題として確認出来たことから、それらのアイデアが浮上したと考えられる。

鹿角市報告会にて登壇者の大野氏が「この度の取組みで平元地区に風が吹き込まれた」とコメントされていたが、今回の取組みの最大の成果はそこにあったと感じている。無風状態のまま人口減少が知らず知らずのうちに深刻化していた状況から、危機感を覚え、やるべきことを明確に出来たことは大きな一歩だったと思う。平元地区の今後のビジョンが描かれた今、次はそれを実現するための具体的なミッションを考え、実践していく段階に入ってくる。その段階では今回のように行政や外部団体の伴走型支援も重要になってくるだろう。今後も総力戦で平元地区の人口安定化に臨んでいただきたい。